

◆本の紹介◆

地団研ハンドブックシリーズ27

「サメの歯化石のしらべ方」

著者：後藤仁敏・田中猛・金子正彦・鈴木秀史・
高桑祐司・サメの歯化石研究会

2020年3月25日発行，B5判 オールカラー 96頁

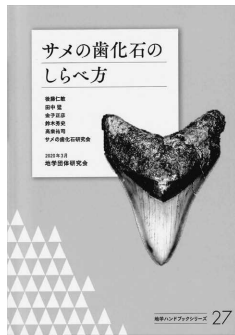
ISSN 0918-5380

頒価800円，送料180円

注文・問い合わせ先：地学団体研究会

chidanken@tokyo.email.ne.jp

郵便振替00160-2-144318



本書は、地学団体研究会が発行している地学ハンドブックシリーズの一つとして発行された。化石研究会の後藤仁敏会員が中心に執筆や編集を携わり、また高桑祐司会員も執筆されている。野外調査や巡検において、サメの歯化石は、貝化石と並んで日本の中ではよく発見される化石である。サメの歯化石を発見した場合、その化石がどんな種類のサメなのかなど調べたくなるものである。しかし、そういった場合、気軽に調べられる本がこれまでなかった。類書がないという点が本書の特徴の一つである。「まえがき」によると「本書は、サメの歯化石についての基本知識をまと

め、高校生以上の方ならどなたでも、おおよその種ないし属レベルの同定ができ、かんたんな報告を書くことができるための、ハンドブックとして活用していただくために発行された」とのことである。サメの歯化石がカラー写真で掲載されていて、写真を見るだけでも楽しい。難点を言えば、扱われている歯化石のデータが多いため、文字数が多い。そのため読書習慣があまりない高校生や大学生には、やや取っ付き難いという印象を与えるかもしれない。歯化石のしらべ方のフローチャートがあったほうが良かったかもしれない。

古生代、中生代や新生代のサメの歯化石について、各目や属ごとに歯の形態、産地と産出地層が掲載されており、実際に採集した化石を手に取りながら、おおよその種名あるいは属名が同定できる。また、本書の項目で「歯の方向用語」、「歯化石の計測法」や「歯化石の撮影方法」では、どこに重点を置き、計測や撮影するのかなどが具体的でかつ丁寧に書かれており、親切である。詳しく調べたい場合の軟骨魚類に関する内外の文献も末尾に網羅されており、報告書などを書くには好都合である。

まえがきによると、「広い意味で、板鰓亜綱だけでなく、古生代のコクリオドゥス目から現生のギンザメ目を含む全頭亜綱や、古生代のエウゲノドゥス目やペタロドゥス目を含む正軟骨頭亜綱など、軟骨魚綱に分類される魚類の歯化石を掲載し、これまで日本から報告されているものを対象とした」という点も本書の特徴である。

頒価が800円と手ごろな価格であり、かつこれまでにない貴重な本である。サメの歯化石に興味を持つ会員以外にも多くの会員にお勧めしたい。ぜひ入手していただき、サメの歯化石に興味を持っていただき、サメの歯の研究がさらに発展すること望んでいる。

(三島弘幸)